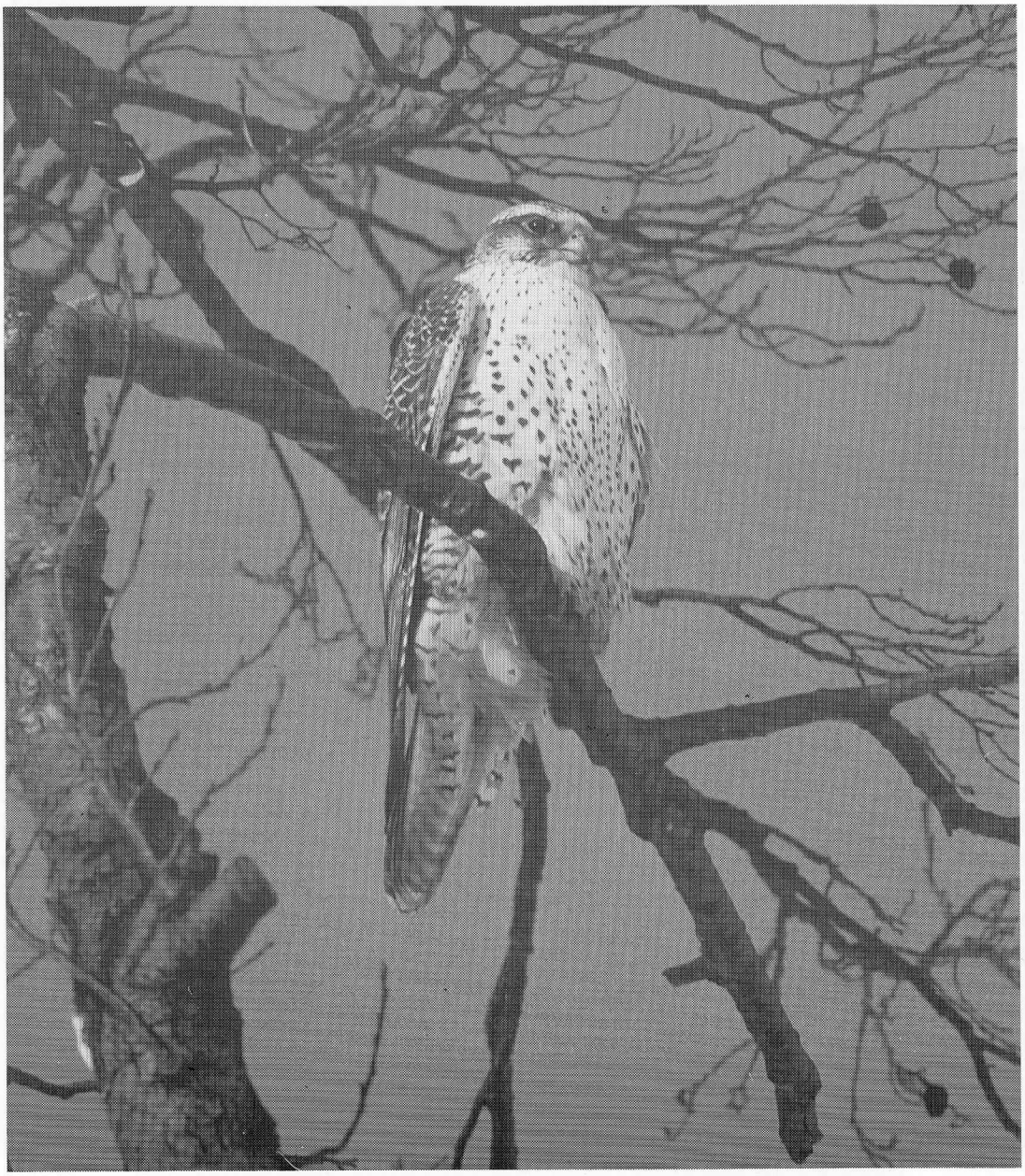
ISSN 0910－2396

野鳥だより —北海道—

第 66 号

編集・発行　北海道野鳥愛護会

発行年月日　昭和61年12月21日



シロハヤブサ　61．2．13　岩見沢市下志文　撮影者 山田 良造

もくじ

私の探鳥地(美唄泥炭地試験場)……田辺　至 …… 2
特集：庭に来る鳥たち …… 3
探鳥会報告 ……11
初めての試み:夜の野幌森林公園 ……戸津高保 ……13
探鳥会案内 ……13
鳥民だより ……14

私の探鳥地　⑦

美唄泥炭地試験場　田辺　至

1. 場　所

美唄市開発町南、美唄市街より西へ道道、美唄ー月形線を月形へ向い約3㎞いった所にある農林水産省所属の泥炭地研究室の試験原野として保存された地域です。

2. 概　況

現在、石狩平野には殆んど残っていない自然のままの高位泥炭地で広さ53.9ヘクタールのササ、ワラビ、ゼンマイの多い草原で、僅かに灌木がはえています。開拓当時のままの泥炭地が残されている貴重な草原です。主な植物としてはハルリンドウ、ヒメシャクナゲ、エゾカンゾウ、エゾゼンテイカ、トキソウ、エゾリンドウ、ワタスゲ、タテヤマリンドウ、エゾイソツツジ、ミズゴケ、モウセンゴケ、サワラン、エゾノコリンゴ、ノハナショウブ、ツルコケモモ、タチギボウシ等があげられています。ここでは泥炭地の土壌改良の研究が4人の研究者によって大正8年から続けられています。主として、草原の鳥が見られます。

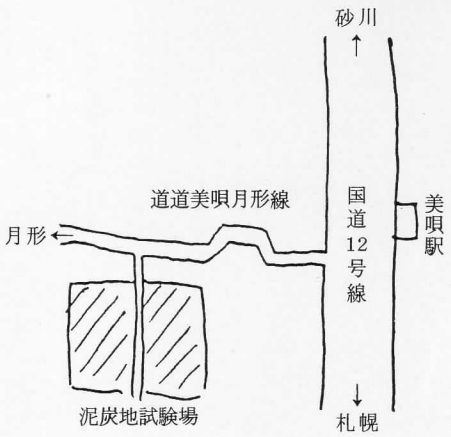
3. 見どころ

私は4月から5月初めまでは美唄の宮島沼で水辺の鳥を楽しみ、それから5月下旬までは野幌森林公園で森林の鳥を楽しみ、5月下旬より8月までは泥炭地試験場で草原の鳥を心ゆくまで楽しみます。この場所を知る人は少なく、誰にじゃまされることなくのんびりと探鳥ができます。そういうわけで、この鳥は人を恐れず、ごく近くで観察や録音のできることが有難いです。期待をはずされることはなく、いつでも沢山の草原の鳥が見られます。ここの鳥の中で私のお気に入りは、姿と声でシマアオジです。特にあの哀愁をおびた声は心に深くひびきます。

4. 見られる鳥

エゾセンニュウ、コジュリン、マキノセンニュウ、アリスイ、アオジ、シマアオジ、オオヨシキリ、コヨシキリ、カッコウ、モズ、ヒバリ、ノゴマ、ノビタキ、オオジシギ、ホオアカ、キジバト等、30種で多いのはシマアオジ、ノゴマ、ノビタキです。

〒072　美唄市西1条南5丁目



—特　集—

庭に来る鳥たち

庭園内でヒガラの巣立ちを成功させた体験例

北口　盛

道内に生息する鳥の中でもヒガラはミソサザイ、キクイタダキ、エナガなどと最も小型の鳥類です。

これまで私の場合、庭木に取り付けた巣箱でのムクドリ、シジュウカラなどは何度か営巣に成功の経験はありましたが、ヒガラに営巣させたのは今回が初めてでした。

これまでの私の知識では、ヒガラは深山の古木に営巣するものと思い込んで居たのです。なぜかなればこの鳥は春4月頃から秋9月頃までは近郊に姿を現わさず、10月から翌年4月初め頃までの間は人家近くそして庭木などを渡り回っているのを見て、そのように理解していたのでした。

そこで何んとか巣箱による人家付近での営巣誘致に挑戦して見たくなりました。

最初は60年4月中旬、60坪程の庭のテラスから6米程離れた高さ4米程の糸桧葉の木の幹に竹筒に穴を明けた巣箱を取付けて小鳥を待ったのでしたが、この季節にはシジュウカラは残っていますが、ヒガラは里から去ってしまい、結局は失敗でした。

そこでその年、そろそろヒガラのやって来る秋の10月早々、同じ木に同じ巣箱を取付けてみました。すると渡って来たヒガラやシジュウカラなどは庭の樹木を飛び回っているうちに巣箱に関心をもち、穴を覗くようになります。何度もそんなことをしているうちに穴から出入りするようになりました。シジュウカラも穴は覗きますが穴の口が小さいためヒガラ以外に出入りできません。

1月から2月にかけてですが、この頃になると2羽のヒガラは既に夫婦としての行動なのです。シジュウカラも同じです。唯目的も無しに飛び回っているわけではありません。ヒガラ専用とした巣箱の穴のサイズは28粍ですから他の鳥はこの穴に入れず諦めます。

3月上旬になって、じっと観察していますと、どうやら2羽のヒガラが夕暮れ時になるとこの巣箱に宿るよう

雛の排泄した糞をくわえて巣箱から飛び出す瞬間

になりました。或はもっと早くから宿って居たのかもわかりません。

これは占めたな、と思っているうちに雪の消えた庭内の地面の虫でも探しているのかと思いきや、さに非ず、良く良く注意して見ますと、水苔をむしり取って巣箱に運んでいることがわかりまた。こんなことが数日、そのあと何かわからなかったのでしたが遠方へ飛んで行っては巣箱に戻ることが頻繁になりました。1カ月以上もそんなことが続いたでしょうか、しかしこの間に何日か鳥の姿が見られなかったことも何回かありました。けれども又姿を現わしてどこかの間を往復しているようでした。

5月中旬には親鳥がいつも巣箱の中に居るような気配で、雌雄どちらかが時折穴から出入りするようになりました。これは産卵し抱卵中だなと感じました。

それから何日か過ぎて、やみくもに親鳥が木々の枝を飛び回って何か変事でも起きたかのように騒がしい様子が現われ、よく注意して巣箱を取り付けた木を見ると何んとしたことか、野良猫が木の枝の上に頑張って鳥をにらみつけていました。猫の奴が近づいたのは雛が孵化していることを知り、しかも巣箱から出入りしようとする親鳥を狙っていたわけです。

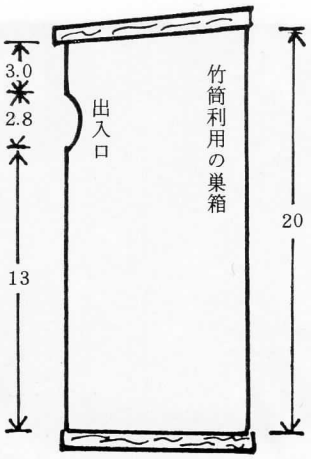
この野郎と追つ拂らって少し目を離しているうちに又も木の上で鳥を狙って居るのです。巣箱の穴には猫の手は入りません。仕事の手を休めて巣箱の番兵をしてやらなくてはならないことになりました。初め1日か2日はご飯を食べる時間の隙も与えられませんから女房と交替でやりましたが、こんなこと長く続くはずはありません遂にこちらの方がギブアップです。

うっちゃってしまおうかとも思いましたが、不憫でなりません。何んとかして外敵を退け、無事巣立たせたいの一念から思案の末、漁家に行ってテグスの古網を貰い受け、これを木の根周囲に半径2米、高さ1米に張り囲い鉄條網ならぬ防猫網を設置し、これで安心と思いきやなんと猫の方が賢こく、1米位の高さは簡単に飛び越えて木に上るわけです。

さて困った揚句、第2の作戦として、天ぷらカマボコの中に毒(農薬)を入れて毒殺戦法を試みましたが、これまた見事大失敗の巻でした。猫は伊達や体裁にヒゲなど立派に生やしているのでは無く、化学的にも分析できない程の超能力の持ち主であったわけです。あの探知機によって直ちに有毒物質と判定され、カラスと共に見向きもされませんでした。万物の霊長たる人間としては只々恐れ入るばかりでした。カラスの持っているあの不体裁な大きな喙も無意味に付けているわけでないこともわかり、人間だけが自然的能力に欠けた動物だなと思いました。

そこで作戦を振り出しに戻して、残っていた網を用い三重の厳重なものにし、高さも2米に張り替え、更に下から潜入できないように地面にも敷き詰めました。これにはさすがの猫殿も寄りつけなくなりました。

巣箱側面



(単位cm)

(1) 巣箱の材料は自然木を木管にすれば最適
(2) ヒラガ専用の場合の穴のサイズは28ミリが最適
(3) 巣の深さは出入口から下方15センチ程度が良い
(4) 底板には通気の小穴を数個あけること

スズメおどしに取付けた黄色の棒
棒は頃合いを見計らってから取り付ける
(最初から取付けて置いては効果がない)

やれやれこれで一と安心も束の間、思いがけない第2の天敵が出現しました。こんどはそれまで猫が恐くて寄りつけなかったスズメの野郎が、虫をくわえて巣に運んで来るヒガラの餌を奪い取ろうと巣箱の上に止って待ち構えて居るのです。ヒガラは一難去って又一難、例によって巣箱の付近で悲しい声を出して助けを求めるようにあわただしく羽根をばたつかせながら騒ぎます。こうなれば弱い小鳥は人間に助つ人を訴えている状態でした。早速スズメを追い拂ってやりましたが、5分間置き位に虫を運んで来るヒガラを助けてやるためには完全に離れることはできません。うっかりして居ては雛を棄て去りにして親鳥が立ち去るかもわかりません。スズメを追い拂うとヒガラは素早く雛に虫を与え、排泄した糞をくわえて巣箱から飛び去り、又虫を求めに行きます。完全に私はヒガラの虜にされました。

そこで今度はスズメ対策をじっくり考えました。鳥類で賢い順は一番がカラス、二番目がスズメとなります。彼らの賢こさを逆に応用して何んとかヒガラを護ってやる方法が無いものかと、斯くしてこれまでの観察結果では、ヒガラは自分の巣箱の上には絶対止ったことの無いことを確認した上、巣箱の上位置10糎程の所に粘着剤を塗った細い棒を仕掛けて、これに止ったスズメを捕虜にし、ヒガラが巣立った後彼らを釈放してやることを考えました。

ところが流石にスズメもさる者、こんな危険物があっては寄りつく筈はありません。作戦は意外な所で大成功、でもこのモチ棒に間違ってヒガラが接着しては一大事と、仕掛けた直後、代替に黄色く塗装した棒と取り換えはしましたが、スズメ殿はこれまた異常な物を仕掛けられたのを見て敏感に危険を感じたか、庭園付近からは総退脚以後完全に姿を消してしまいました。ヒガラの方は人間を味方と信じきっていますから側に近づいても恐れなくなっていました。

これで私もやっとヒガラから解放されることになりました。いやはやひどい目に逢いましたね。

その後1カ月余り、ヒガラは5羽の雛を無事育て上げ私に感謝の言葉もないままどこかに立ち去りました。もっともこんな危険な場所に営巣させたのは私の責任ですから仕方ありません。

シジュウカラですと巣立ったあと10日間位は夜は古巣に宿りますが、ヒガラは一度も戻りませんでした。危険地帯は桑原と思ったのでしょう。

次に巣立ったあとの巣箱を開いて中の状態を見ますと巣の一番下に敷いてあるのは水苔が約2糎の厚さ、その上に何の獣毛か畜毛かわかりませんが、どこから集めて来たものやら、灰色一色の純毛をじゅうたんか毛布を丸く切り抜いて一枚のものを敷いたかの様に異物1本の混入も無い1糎程の真っ平のでした。あの小さな鳥がどうしてこんな立派な巣を造ったのか、それには幾百回も夫婦で根気よく集めたものだと感心させられました。

要するにヒガラを住宅付近の巣箱に誘致する場合大事なことは

1. 巣箱の出入口の穴の直径は28粍を守ること。
2. 設置時期は遅くとも11月～12月中に完了すること。
3. 外敵の駆除に手落ちの無いようにすること。

以上はシジュウカラの営巣誘致にも共通するものがあると考えます。

〒049－31　山越郡八雲町宮園町30

シジュウカラ（P．L柳沢千代子）

シメ、カワラヒワ（臼井とし子）

私の庭の野鳥たち

庭に来る鳥たち

田中　礼子

わが家の西側が、雑木林という環境もあってわりあい多くの鳥を見ることができます。5年ほど前に冬になると、生垣に植えてあるアメリカメギの赤い実を、コウライキジ、ツグミ、ヒヨドリなどが、食べにやってくるのを見て、その後ベランダ前の庭に餌台を取りつけ作り変えること3回、屋根つきのまわりがよく見渡せるようなものにしました。このほか、タル木に釘を打ちつけ庭木の間に渡し、パン、リンゴ、ミカンなどをならべアカゲラの好む脂身は金網に入れて庭木にしばりつけた（金網でないとネコ、カラスにとられる。）シジュウカラには必要なだけ自動的に出てくるようになっているプラチック製の円筒（これは買ったもの）をヒマワリの種を入れて木の枝に吊すなど、多種類の鳥が訪れるようにしました。わが家の給餌は、11月の終わりころから始めて、3月末でやめます。コウライキジ、キジバトには、から付のトウキビをオンコの木の下に置いてやります。（今年の春はオスキジは姿を見せない）これまで、餌台に来た鳥は、スズメをはじめとして、ヒヨドリ、ムクドリ、ツグミ、シジュウカラ、カワラヒワ、シメ、モズ、アカゲラ、ヤマガラ、ウソ，キレンジャク、ヒレンジャク、イカル、コウライキジ、キジバト、ハギマシコなどで、常連客は、スズメのほか、アカゲラ、ヒヨドリ、ムクドリ、シジュウカラなどで、毎朝ベランダのカーテンをあけるとアカゲラが脂身をつついている。スズメの軍団は、餌台付近の木の枝に鈴なりになって餌を待っている姿がいじらしい。しかし、スズメも気楽に餌台に群がってばかりいて安心できない、ムクドリに追われたり、ときには、ノスリに急襲され逃げ遅れたものは食い殺されることも見ました。シジュウカラのヒマワリの種を木の枝に運こんで両足ではさみ殻を破って食べる器用な動作は可愛らしい。今年の冬はどんな鳥が姿を見せてくれるのか、のんびり眺めて楽しみたいと、思っております。

〒005　札幌市南区川沿5条3丁目3－22

餌台我家の場合

矢野　玲子

うちでは12月末から3月末迄屋根付の餌台をえんじゅや白木蓮の高い木に囲まれた庭の真ん中に設置します。餌はひまわりや南瓜の種子、ゴハン粒、とうきび、パン、豚脂、りんごなどです。ひまわりの種子は清涼飲料のボトルで作った物に入れて木に引っかけ、豚脂も木に張りつけます。与える量は一日にパンが4カップ、ひまわりは半カップ位でしょうか。それでも昼過ぎにはきれいになくなり翌朝になると給餌係の娘の出て来るのをあちこちで待っています。戸を開けるとシジュウカラなどは娘の体にまとわりつくのです。

常連客はスズメ、ムクドリ、ヒヨドリ、シジュウカラ、アカゲラ、ツグミ、ハチジョウツグミ、シメ。突然集団でやって来るキレンジャクは美しいけれど細々と与えているりんごをあっという間に食べ散らしてくれます。たまにやって来るのはハイタカにアトリ。春近くにはカワラヒワ、ハクセキレイも来ます。近くのお宅にはヤマゲラやコウライキジも来るそうですがうちではまだです。

この時期人は冬ごもりがちになります。しかしうちでは野鳥に会いにいろいろな友が訪れてくれて楽しみがもう一つふえるのです。

〒001　札幌市北区屯田3条1丁目5－1

冬の餌台　　土屋　文男

はじめて私が餌台を作ったのは、確か昭和36年の冬だったと記憶している。もう25年たつ。当時は中央区南29条西12丁目に住んでいた。山麓を廻る自動車道路もなく、藻岩山と私の庭とは地続きだったことになる。藻岩山から流れる「岩隙水」は、流れとなって小さな池ができ、毎春、エゾセンニュウの「トッピン・カケタカ」の声を聞いた。エゾサンショウウオが、余分と思われるくらいの卵を生み、ある時、興味を持って水の分析をしてみたら、Naのきわめて少ない良質の水であることが判った。数年間、餌台を作って野鳥たちの生態を観察した。メジロ、トラツグミの外クマゲラなどもやって来た。隣りの石油会社の社長さんが大切にしていたシイタケの榾木がケラ類の早朝の飛来で、すっかり駄目になり驚いたこともあった。

しかし、藻岩山は北半球に於ける名山の一つで、天然記念物に指定されている。生態系を乱すのはよくないことだと、餌台は数年で中止した。休みには双眼鏡を持って山麓を廻ることにした。現在、南警察署になっている所は、山鼻墓地で、小雨降る日に鳴く、トラツグミの声は何とも気味の悪いものだった。

数年前、現在地の福住に移転したが、裏庭に、樹木や雑草に手を加えない、「ミニ・サンクチュアリー」を作った。鳥友たちに自慢するのだが、西岡水源池で見られる、鳥たちの殆どは、この附近で十分観察できる。月寒川が南から北へ流れているからである。

2年間は毎朝、熱心に餌台に来る鳥たちを観察した。気が向けば写真も撮った。掲載の写真は当時のものである。

ある人の勧めで、今年の正月の頃、強力なストロボ、モータードライブや遠隔操作の器具、オートフォーカスまでそろえたが、皮肉なことに、餌台への飛来が少なかった。

毎日の仕事が忙しいので、カラースライド2本くらい撮ったにすぎない。宝の持ち腐れとはこのことで、今年の冬に期待している。

餌台の設置は功罪半ばする所であるが、バード・ウォッチングの時、十分に見られない、鳥の個体の各方面からの観察、採餌法、異種間のテリトリー争いなど、じっくりと食事をしながらでも観察できる長所も忘れてはならない。

〒062　札幌市豊平区福住1条8丁目10−13

ベランダの鳥　　木内　恵美

円山公園より近く、郵便貯金会館の東隣にあるマンションに54年の秋に住みはじめました。五階なので大きな白樺の木がベランダの所までのびてあるので、よく小鳥がくるので、55年の冬よりベランダの手摺の上に25糎と20糎の木箱を、針金でしばって食パンとりんごを入れておきました。1羽、2羽とヒヨドリが来てついばんでいるのです。59年頃まではヒヨドリ、アカゲラ、四十雀も来てましたが、今年はヒヨドリとスズメだけです。ところが今年の3月13日に一度に10羽もとんできてびっくりしました。次の日ベランダのプランターの上にも箱をおいてりんごとパンをやっておきました。今冬もきっとまたヒヨドリが、とんでくるのを楽しみにしております。

〒064　札幌市中央区南1条西26丁目
ふじ井ハイデンス円山502

紅色の尾

臼井とし子

野鳥にあまり関心を持たない人から毎年キレンジャクが庭にきて気味が悪いのよ。一週間位で去って行くとホッとするの……と聞かされて絵や写真でしか見てない私は羨望の念やみがたく、どうか我が家の庭にも来てほしいと祈るように待ったかいがあってある年、ついにキレンジャクとヒレンジャクが群になって数十羽も姿を見せてくれたのです。ようこそとりんごを庭に運んだけれど彼等の食欲のスゴサにヒヨドリ用のがアッと云う間に底をつき、あわてて買いに走る始末……御常連のヒヨドリやつぐみを片隅に追い散らし、またたく間に芯だけのりんごが庭にころがっていました。私は補給に何度も庭に通い、陽に映えるヒレンジャクの紅色の尾の美しさに感動してしまいました。それは60年の2月から3月のまだ庭に雪のある頃の事でした。他にカワラヒワ、シメ、シジュウカラが毎年姿を見せてくれ、手作りの餌台でヒマワリの種をついばんでくれています。

〒042　函館市
高丘町11－8

我庭の野鳥

泉屋宜志

もうじき、朮枯風の時期も近づいて来ました。ベランダから眺められる上の雑木林の木の葉も落ちて、見通しよくなります。カラ類が通り道になって、エナガやコゲラも混って40，50羽ほどの群れが西の空から東の方へ風と枯葉と一緒にカラカラコロコロと流れる様に渡って行く。庭の植木の冬囲いも忙しくなって来て小鳥を目で追いながら毎日にぎやかに楽しみの日々がうれしい。

給餌台にはスズメが集り始めます。毎日朝夕コゴ米をパックにセットします。今年はヒマワリの種を用意出来ずさびしい餌台だが、トーキビ、リンゴを給しよう。今年はカケスは来るのかどうか、昨年は来なかった。トーキビが好物だから今年もあのハイタカは、スズメの味をしめて来るだろうか、餌台に三団体の90羽のスズメの群に東の山から白い陰をゆらして音もなくサッと突き込んで来る。マトはスズメ、悲しいかな隣のオンコの木の中に一しゅんの間かくれるのだがハイタカは、白い腹をひるがへして、オンコの木の廻りをバサバサと体を返して追いかけまわすその様子はいささか肝を潰して見送るだけなのである。何日か後には30羽づつの三団体の小スズメは1羽も姿を見せなくなってしまった。

毎年車庫の軒下にスズメのひなの声がするのだが、今年は声がしないと家の者が不思議に思った7月のある日カモイの上に太い青大将（ヘビ）がとぐろをまいて、主よろしい顔をしているのを見つけた。道理でそのはずと皆なるほどとおどろいてしまった。難が続きでスズメの集りが悪いのは残念である。イカルやアカゲラやシジュウカラ、ゴジュウカラ、エナガ、カケス、ヒヨドリ等外の小鳥が安心して来てくれないから。

〒061－22　札幌市南区藤野6条6丁目550～45

こんな給餌台はいかが!!

我が家の給餌台

大坊　幸七

其の一

給餌台の作りかたについては、鳥に関する本の中でその作りかたの記されている本もある。設計図どおり作るとなると大工道具を取り出し、鉛筆を小耳に挟み曲尺などと面倒なことになる。しかしそれも我々サラリーマンに取って又楽しい一ときでもある。それが、面倒という人に私の給餌台の方法をご紹介しょう。まず、奥さんがもう投げようかと思っていなさる円いザル（ビニール製が良い）を出して貰い、円を十文字にした箇所の縁に麻紐などを結び四本同じ長さに揃える。作りかたはこれで終わりである。これを枝に取り付ければよい。ザルであるから雨が溜まらない。なんと簡単ではないか。私は更にもう一つザルを用意して冬の雪よけとして笠を着けている。

其の二

木で給餌台を作るのも嫌、ザルも嫌という人、これは極めつけの不精であるが、居間から見える庭にヒマワリの種を春に蒔いて下さい。秋になって大きく種がびっしり付きますが、そのまま刈り取りをしないで添え木（竹など）をして下さい。シジュウカラは喜んで食べます。ヒマワリの点頭した実を宙返りして食べるシジュウカラのかわいい姿を居間から楽しめます。

〒062　札幌市豊平区西岡２条５丁目８番８号

私の給餌台

山本　一

56年１月に白鳥園の小沢氏宅の給餌施設に集まる鳥を室内から見せて戴き、その素晴しさに強い感銘を受けました。

さて私共の住居はバス停から１丁のところにあり人家は割にこんでいます。今までは野鳥が来てくれるなどとは全く考えたこともなかったのです。

それでも餌台を作って待つこと２週間、嬉しや、ヒヨドリが１羽飛来しました。翌日からはその他にツグミ、シジュウカラ、シメなど訪れる鳥の種類や数も多く、その美しさ、可愛らしさにすっかり魅せられ、過ぎ去った12～13年もの間に餌台も作らず無為に過したことを後悔した程です。

餌台を作ってからのこの５年間では野鳥の種類は、都市化が進んできたせいでしょうか、少なくはなっていますが、冬の間毎日のように観察できます。

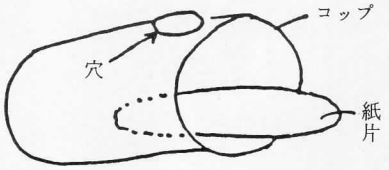
茶の間でくつろぎながら、窓越しに庭木の餌台に集まる野鳥のしぐさを眺めるのは楽しいことで、雪も多く、寒さのきびしい冬の期間を従来よりも短かく感じています。

毎年２月に入り寒さが一段ときびしく、野も山も白一色で被れる頃になりますと、野鳥は餌を求めて必死になって探していますから人家の近くであっても、餌場を見付けると必ずよってくれるものと思います。

次に私案の餌場の工夫など紹介させて戴きますが、本当のところはかえって教えて戴きたいところです。

(1)　スズメがいると他の野鳥も安心して寄ってくるので、餌と水は切らさぬようにしています。野鳥の特質を生かすには給餌は多すぎてもよいとはいえないそうで、私共は餌の量は少なめです。風雨(雪)が強いと餌箱が吹飛ばされたりしますし、雨や雪が餌の上にたまってしまうこ

(1)



尚このコップの外に私共では直径２倍の大きさのコップを矢張り、使っています。共に水飴入りでした。

又熱したメタルでコップの側面を溶けおとすとき力余って反対面を溶かさぬように紙を入れて受けました。

コップの側面に２個の穴をあけますとスズメが向い合って首をつこんで餌をとり面白い光景ですが横なぐりの雨のとき（大抵北風）水が入りますので最近は１穴のみです。

ともあるので上の図のように工夫しました。

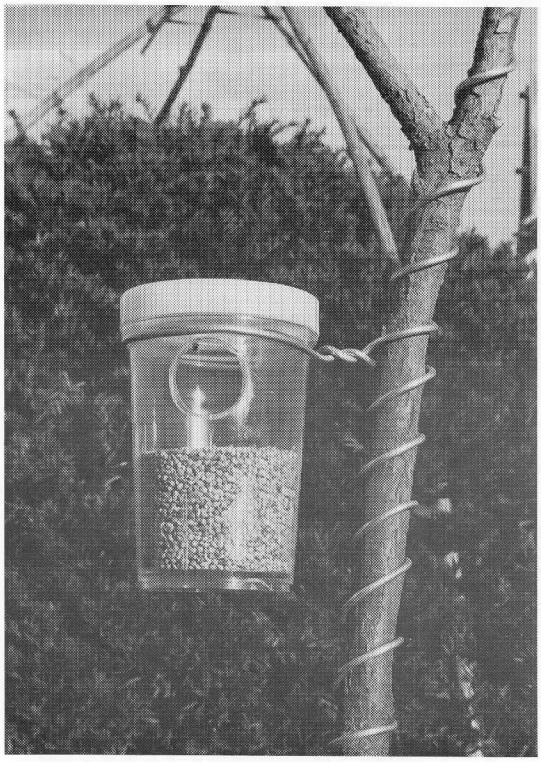
100cc余りの水飴の入っていた透明の樹脂製の蓋付のコップを横倒しにしておきます。一方5円玉と同じ大きさの古メダルがあったので、これをガスの炎で熱し、ピンセットでつまみ、コップの上に乗せると、樹脂の円板が溶けて下に落ち、コップに丸い穴があきます。

このコップを庭木に据えるのに私はアルミ線を使いました。代用としては足場丸太の結束などに使う「ナマシ線」でもよろしく、これは日曜大工の店（又は園芸専門店）で1ｍ位の長さに切ったものがありました。自作するには鉄線を赤熱して徐々に冷却します。

この線をコップが出し入れできるような輪を作り、輪の端で2本の線をひねり、ときほぐした1本を木の枝の上にからませたならば1本は木の枝の下にからませるというようにします。

今まで木の枝が斜めになっているところに、コップを正立させるのに苦労しましたが、この工夫でうまく加減できるようになりました。

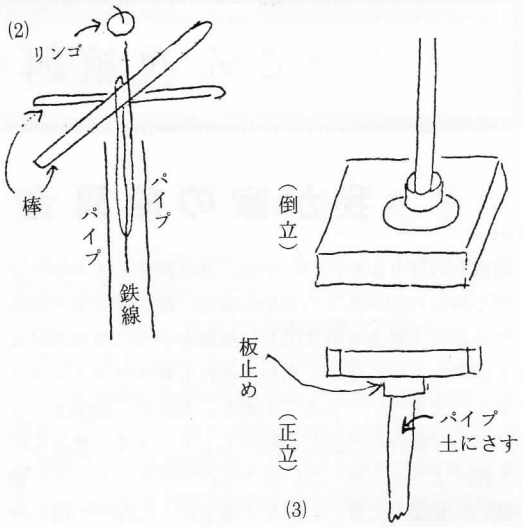
コップの蓋の上に粒餌を置くと、スズメは先ずそれを啄み、次にコップの側面の丸穴から首をつっこんで中の餌を啄みます。



粒餌は皮つきのものが自然の状態に近いし、安価です。

(2)　予め指位の太さで、腕の長さ位の木の棒を十字の形にしっかり縛っておきます。

ナマシ鉄線で2本の棒の交叉したところをぐるりと一巻きします。このとき**巻き**がだらりと下にさがるようにします。



これを子供の背丈位のパイプに挿入します。（パイプの中に鉄線1本ではグラつきますが、この場合3本入るので安定がよいわけです。）垂直の鉄線に二つ割りのリンゴをくし刺しにします。庭の土中にパイプをさし、野鳥が馴れるに従って家の近くに寄せます。私共では窓から60cmのものもあります。

(3)　浅い底の木箱（私はお菓子の入っていた木箱の蓋を用いました。）を伏せて、図のように**板止め**を取付けます。（日曜大工の店で30円で求めました。）この板止めにパイプをさし込みます。さし込んだらひっくり返えして浅い箱状の餌入れには**あみわたし**（金網）をかぶせます。

この移動式餌箱もだんだん家に近づけます。私共では窓から30cmです。雪がつもると窓をあけ網より上の雪を**ほうき**ではき、湯わかしの湯をかけて雪をとかします。網なしで2つ割りのクルミを置くとシジュウカラは隣の家の庭木に運んでそこで食べます。ハハハ……。
金網がないとスズメが足で餌をかき散らして四散させます。

(4)　その他餌場に集った野鳥を撮影するのに今まではカーテンの間から撮影したものです。ガラス窓越しに撮影はしません。カーテンでは外気のため部屋が冷えるので、断熱材（スタイロホーム）を2枚のベニヤで挟んだ戸を作り、戸にレンズ穴をあけてあります。

カメラは古いペンタックス。レンズは150ミリが主です。距離は3ｍです。餌台をもつと窓に近づけ標準レンズ50ミリで撮影できないこともないでしょうが、私のカメラのシャッター音を鳥は嫌います。写真より実物がもっと美しく、ほれぼれします。家内は野鳥に話掛けます。

〒001　札幌市北区屯田4条2丁目9－22

福　　移　　61. 7. 6　　舟橋　定之

草原の鳥たちを求めての探鳥会への参加ははじめてのことです。日頃書斎にコヨシキリやシマアオジの写真を飾ってみたり、時折野鳥図鑑を眺めているのでこれらの野鳥は比較的身近な存在です。恋人に逢う前の若やいだ気分で午前八時半すぎに、同行の数名とともに、市営札苗線中福移のバス停に降りた。先着の会員の方々と合流して堤防への道を進むころには、心配していた天気も予報がはずれ、陽光が降り注ぎ路面の反射光が眩しい程になった。草原での探鳥会にふさわしい夏の日である。右手の落葉松の防風林からであろうかカッコウとキジバトの声がさわやかな風にのってまずやってきた。堤防への道を進むうち、はじめに見付けたのはアリスイであった。かっ色と黒と灰色の複雑な斑紋は一見けっして派手ではないが、じっくりみると案外落ち着いた上品な模様なのであろう。アオジとノビタキが鳴いていますね、と教えられるが、残念なことに区別がつかない。鳴き声を聴きわける勉強もしなければならないと思った。堤防に近くなったころ、幸いに、目前数メートルの所でノビタキとノゴマがかなり長いこと囀りの共演を見せてくれた。われわれの存在など意に介せず、夏の日のすばらしさを満喫するような澄み切ったメロディーでした。背中の白の逆八の字の模様はノビタキの飛び姿を印象深いものとしてくれた。堤防にのぼると、草地側ではさらにヒバリやホオアカがみられ、川原のヤナギの繁みからは、オオヨシキリやコヨシキリの囀りが聴かれた。豊平川と石狩川の合流地点であるこの辺は、河岸の草地が年々狭められ、河川の改修工事も進められていて野鳥のすむ環境は失われつつあるようです。アオサギも昨夏は沢山みられたそうです。私にとって今日の探鳥会における圧巻はオオヨシキリをじっくり観察できたことである。カワヤナギの頂近くで大きな口を開け一生懸命に囀っている姿からは崇高なものさえ感じた。川風に揺らぐ若葉のかげで囀るオオヨシキリの口の内の赤い色は一際鮮明で強烈な印象を与えた。対岸の護岸工事の個所を避けるように流れにたたずむアオサギはさびしそうであった。野鳥とは思えないような美しいベニマシコのつがいの出現は、今日の探鳥会のしめくくりにふさわしいものであった。昼食の後鳥合わせをして29種が確認されたが、私としてはオオジュリンやコヨシキリなどもっとじっくり観察したかったものもあった。11時30分前に散会し、その足で衆参同日選挙の投票所に急いだ。沢山のことを教えていただきありがとうございました。

〔記録された鳥〕アオサギ、トビ、チュウヒ、ウズラ、イソシギ、ウミネコ、キジバト、カッコウ、アリスイ、ヒバリ、ショウドウツバメ、ハクセキレイ、モズ、ノゴマ、ノビタキ、アカハラ、シマセンニュウ、コヨシキリ、オオヨシキリ、ホオアカ、シマアオジ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、ベニマシコ、イカル、スズメ、コムクドリ、ムクドリ　以上29種

〔参加者〕舟橋定之、後藤義民・やち子、羽田恭子、早瀬広司、星野加奈、井上公雄、道川　弘・冨美子、永井愛、西　秀司、新妻　博、野口正男・キヨ、大野信明、佐々木武己、園部恭一、曽根モト、高梨敏子、谷口登志、竹内　強、戸津高保　以上22名

〔担当幹事〕早瀬広司、竹内　強

〒064　札幌市中央区南７条西13丁目　Ｆ301

張　　碓　　61. 9. 6　　犬飼　　弘

はじめて野鳥だより45号を手にし会の仲間入りをさせていただいてから毎年“張碓”の２字を横目に、職場の都合で何時も参加を断念せざるを得なかった。

しかし今年はようやく仕事にさまたげられることもなくなったので予定表をいただいた時早速９月６日を大きく赤丸で囲みその日を心待ちに待った。

当日は日中一時雨の予報があり空模様も思わしくなかったがままよという気持で出かけた。バスは予想外に時間がかかり集合時間ぎりぎりにすべりこんだ。２，３人のウオッチャーとおぼしき方々がおられほっとする。単独観察も覚悟して出かけたので実にありがたい。一人の方が下で既に海水飲みのシーンを観察されたと聞きこれはいけると集合者全員浜の方へ下りていった。

途中二、三羽のアオバトの飛翔を観察できたが集団の姿が見えない。何かを警戒しているらしい。一方海中の岩場や防波堤付近ではウミネコ・オオセグロカモメ・ウミウの群が見える。微動だにしないウなど観察し時をまぎらわしているうちに左手山側の樹上に見張斥候鳥とおぼしきアオバト三羽が止っている。実は更にその左手に高く張出ている崖の上方に鼻の如くつき出た岩場にハヤブサが悠然と腰をおろしている。雌雄いずれかはっきりしない。ペアで旋回していたらしいが他の一羽は今は見

えない。待つこと一時間、緊張のしじまを破って撃って出る隼の勇姿のみならず本命のあおばとの海水飲みも期待できそうもなく、ついに小雨も降り始め、観察をやめ帰路についた。幸いにも同方向の竹内さんの車に乗せていただき、同乗の戸津さんから千歳川周辺一泊談等楽しい探鳥のお話しをお聞きしたことがせめてもの喜びでした。それでもあおばとの姿を観察できたことは昨年より少々ましという外ない。今回はリハサールということにして次回に期待したい。

〔記録された鳥〕ウミウ、トビ、ハヤブサ、オオセグロカモメ、ウミネコ、アオバト、アマツバメ、イワツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ヤマガラ、シジュウカラ、シメ、スズメ　以上15種

〔参加者〕小堀煌治、園部恭一、佐々木武己、犬飼　弘、小山賢一郎、難波茂雄、戸津高保

〔担当幹事〕竹内　強

鵡　川　　61. 8. 31

アマサギ、コサギ、アオサギ（P．L福岡研也）

〔記録された鳥〕アオサギ、トビ、オオタカ、チュウヒ、チゴハヤブサ、コチドリ、メダイチドリ、ムナグロ、ダイゼン、トウネン、ヒバリシギ、アオアシシギ、イソシギ、ソリハシシギ、オグロシギ、オオソリハシシギ、チュウシャクシギ、ユリカモメ、オオセグロカモメ、ウミネコ、アジサシ、アオバト、カワセミ、ヒバリ、ショウドウツバメ、ツバメ、ハクセキレイ、ノビタキ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス　以上32種

〔参加者〕石谷義一、井上公雄、梅津譲一、大浦美佐子、大槌正夫、大野信明、今野　弘、佐々木武己、園部恭一、竹内　強、田中礼子、谷口一芳・登志、戸津高保・以知子、難波茂雄、羽田恭子、福岡研也・玲子、堀内　進、道川　弘・冨美子、矢野昭二・玲子、若林信男、渡辺紀久雄

〔担当幹事〕堀内　進、渡辺紀久雄

鵡　川　　61. 9. 14　　金上　倫子（小学6年）

日曜日に、鵡川に鳥を見に行きました。シギやチドリは、よくわからないので、たくさん見てたくさん覚えられたらいいなぁと思いました。

その日は、人や車がたくさん入っていたので、鳥が出てこないかと思ったけど結局35種みることができました。

はじめの内、何か出てこないかなぁと思って歩いていたら、前の方の草むらの中から、「チッチッチッ。」と、小さいハシブトガラが飛び出してきました。私達の方に、まっすぐ飛んできたので、ぶつかるかと思ったら、先頭の人のさんきゃくにとまりました。とまってからも鳴いたので口の中が見えました。羽もさわってみたいな。と思ったけれど、しばらくしたら、草むらの中から他の2羽が出てきて、3羽いっしょに、とんでいってしまいました。「ハシブトガラもつかれているんだな。」と、思いました。

しばらく歩いて、私は流木の上にすわっていたら、ツルシギが2羽飛んできました。赤い足がとてもきれいで印象的でした。人間は、手も足もだいたい同じ色なのに、なぜ鳥は、いろんな色があるのだろう。と、思いました。

昼食後、向こう岸に、チドリ達がいました。砂の中にうずくまって、ジッとしてたので、石ころと、見わけがつきません。チドリ達も昼休みのようです。

だけど、昼休みも遊んでいる鳥もたくさんいました。水のふちでバチャバチャやったり、とつぜん一直線に走りだしたり、他の鳥をけとばしたり……。

いろいろな種類がまじっていました。

私にはメダイチドリしかわかりません。

「やっぱりむずかしいな。」

むれの中には、ミユビシギなどはじめてみるものもありました。とてもうれしいむれでした。

帰りは、出口近くで、タカブシギを見つけました。はじめて自分で見つけられたので、とてもうれしかったです。

この次見つけたら、「ここに何かいるけどこれは何？」ではなくて、「ここに○○がいるよ。」といえるようになりたいと思います。今度鵡川に来たら、新しい鳥をもう1種ふやしたいです。

〔記録された鳥〕アオサギ、コガモ、オナガガモ、トビ、オオタカ、チュウヒ、メダイチドリ、トウネン、ハマシギ、ミユビシギ、ツルシギ、タカブシギ、ソリハシシギ、オオソリハシシギ、ホウロクシギ、チュウシャクシギ、ユリカモメ、オオセグロカモメ、カモメ、ウミネコ、アジサシ、キジバト、ヒバリ、ショウドウツバメ、ハクセキレイ、ノビタキ、ハシブトガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、ホオアカ、オオジュリン、カワラヒワ、ムクドリ、ハシボソガラス、ドバト　以上35種

〔参加者〕佐藤彰夫・まり子、山田　浩、金上由紀・倫子、香川　稔、大野信明、田中金作・礼子、竹内　強、柳沢信雄、道川　弘・冨美子、藤谷昭典、堀内　進、羽田恭子、高梨敏子、井上公雄、富川　徹・明美、戸津高保・以知子、渋谷信六・弘子、大坊幸七、長谷川涼子、見延誠一、土田光子、石谷義一、園部恭一、福岡研也・玲子　以上32名

〔担当幹事〕福岡研也、竹内　強

〒065　札幌市東区北24東6－6

初めての試み―夜の野幌森林公園

愛護会のシンボルマークであるフクロウの声を聞こうと、会として初めての夜の探鳥会を野幌森林公園で、行いました。幸い雲もなく、星がきれいな気持ちの良い夜でした。

午後7時に記念塔前集合。参加者は34名でした。

記念塔から森林公園に入り、大沢口を通って、大沢コース、園地、桂コースと歩きました。まだうす明るい中をキビタキ、クロツグミ、ヤブサメなどの声を聞きながら歩いていたら、大沢コースあたりから暗くなってきました。

午後8時頃までは公園外からの自動車の音やマイクの声が思ったよりやかましかったのですが、大沢園地付近から静かになり、ヨタカの声が近くで聞こえ、正体不明の鳥？の声が聞こえたり、キツネ？らしい動物がガサガサ動いたり。園地で少し休み、期待の桂コースを注意して歩いたのですが、鳥の気配はなし。

帰りの大沢口から記念塔にもどるコースでトラツグミが鳴き、後を歩いていたグループがついに、フクロウ親子の声を聞きました。午後10時、記念塔にもどり解散しました。夜の探鳥で注意することは、参加者が出来るだけ話をしないことと、かい中電燈をむやみにつけないことです。なお、フクロウ等の夜の鳥についての情報がありましたら係まで連絡をお願いします。

（戸津　高保）

〔野幌スキー探鳥会〕

昭和62年2月15日（日）

一年中で一番厳しい季節です。昨年はカラ類、キツツキ類の他に、ハギマシコやオジロワシもみられました。歩くスキーあるいは深めの長靴で歩けます。雪の中の探鳥会なので、新雪の後では、雪の上に色々な動物達の足跡がみられるのも楽しいものです。

午前9時30分　大沢駐車場入り口または午前8時30分百年記念塔前集合。

〔円山公園〕　昭和62年3月1日（日）

管理事務所前にバードテーブルがあり、身近に鳥達を見ることができます。アトリやレンジャク、イスカなどが割合みられる例会です。地下鉄からすぐですし、午前中で解散しますので気軽に参加して下さい。

午前10時円山公園管理事務所前集合。

〔ウトナイ湖〕　昭和62年3月29日（日）

ウトナイ湖には、北帰途中の鳥達が集っています。ハクチョウ、マガン、ヒシクイなどが群れていて、カモ類も豊富にみられます。ネイチャーセンターの付近ではカラ類やアトリなどもみられるでしょう。

午前10時　ウトナイレイクホテル湖畔側集合。

〔野幌森林公園〕　昭和62年4月19日（日）、26日（日）

北海道の春が始っています。フクジュソウやエゾエ

ンゴサクなどの野の花が咲き始め、南からの鳥達もやってきて、野幌の森もにぎやかになります。オオジシギ、アオジやベニマシコなどがみられるでしょう。

午前9時30分　大沢駐車場入り口集合。（時間の変更があるかもしれません）

〔野幌森林公園を歩きましょう〕　昭和62年4月12日（日）

午前9時30分　大沢駐車場入り口集合の予定。

いずれの探鳥会も暴風雨、暴風雪でないかぎり行ないます。昼食（円山公園探鳥会は除く）・筆記用具・観察用具をご用意下さい。

探鳥会についての問い合わせは、戸津011－831－8636まで。

鳥民便り

◆定例幹事会報告

定例幹事会は8月から12月まで毎月、札幌市民会館会議室にて行いました。会誌のあり方についての検討や新年懇談会・写真展等、来年度の行事についての協議・検討を中心に行いました。

◆新年懇談会の開催について

新年懇談会を次のとおり開催しますので、会員の多数の参加をお待ちしております。参加費は500円で当日受付でお支払いください。

日時　昭和62年1月24日(土)午後2時～

場所　北海道婦人文化会館(札幌市中央区北1条西7丁目)

内容　講演：「アメリカにおける鳥獣保護」

講師：安西　英明 氏

スライド映写：参加者が持参した鳥や植物、動物など自然に関するスライドを見て楽しみます。

◆62年度写真展のお知らせ

62年度においても、野鳥写真展を開催いたしますので振ってご応募ください。提供された写真については、表紙写真や野鳥だよりに掲載の予定ですので力作を期待しております。

＜応募要領＞

◎テーマ　野鳥とします。

◎サイズ　四ツ切以上で1人2点まで

◎〆切り　4月18日(土)まで

◎送付先　野鳥愛護会事務局あて

◎展示期間と場所(変更があるかも知れません)

・ふれあい広場(札幌地下街)　5/1～5/5

・三菱信託銀行　5/10～5/23

◎展示後　額縁をつけてお返しします。

◆ご寄付について

今年2月に永眠された故萩　千賀さんのご母堂、萩　恒様より当会へ10万円のご寄付がありました。当会ではご厚意をいかし、会のために有効に使わせていただく所存です。どうもありがとうございました。

◆寄贈図書について

佐々木　宏様より佐々木　勇様著「あおばと」

飯島良朗様より同氏著「大樹の鳥」

以上2冊の図書のご寄贈がありました。どうもありがとうございました。

北尾　諭 氏

元幹事の北尾　諭さんが12月4日、お亡くなりになられました。北尾さんは探鳥会及び広報の幹事としての活動の他、探鳥会テキストのイラストを全て担当されるなど当会に多大な貢献をしていただきました。ご逝去を悼みつつしんでご冥福をお祈り申しあげます。

編集後記

給餌台特集いかがでしたか。たくさんの方の投稿や写真でこの企画を実現することができました。編集をすすめていく中で、会員の皆さんの野鳥への思いがひしひしと伝わって来ました。野鳥だよりを通して給餌台だけでなくもっとたくさんの情報交換ができたらなと考えています。

野鳥はもちろん、動物や花など自然に関することも含めて会員の皆さんの投稿や写真をお待ちしております。

今日の特集に際して旭川の石川悦子さんより旭川野鳥の会の会報「北の野鳥」第20号のバードテーブルの記事の紹介がありました。お知らせします。

〔北海道野鳥愛護会〕年会費 1,500円（会計年度4月より）　郵便振替 小樽 1－18287

〒060　札幌市中央区北1条西7丁目　広井ビル5階　北海道自然保護協会気付 ☎(011) 251－5465